大学関係中央要請行動報告

学費値上げ・奨学金改悪反対の声を政府・各省庁・各政党へ！

京大学生から10名の代表

私たちは、11月27日、つまり「行革一括特例法案」が成立した当日に、先頃から集めた大学関係七団体署名を持って、中央に要請に行ってきました。

この要請は3つの目的をもっていました。一つは大学関係七団体の署名を政府に手渡すこと。2つめは、各省庁・政党に署名の六項目（学費値上げ反対・私学助成削減反対・奨学金制度改悪反対・教職員削減反対・大学設置反対）を要請すること。3つめは、最終盤の国会の姿をよく見、それが私達の要求に誠実に対応しているかを見守ることです。

この観点から、私たちは要請行動の組と国会の参院行革特別委の傍聴の組とに別れて行動し、最後に日比谷野外音楽堂の集会に合流し国会へデモ行進を行ないました。

大蔵省・第2臨調は会わず

要請行動組は、政府・文部省・運輸省自治省の各省、公明党を除く政党、私大関係団体、日本育英会、国立大学協会です。しかし、大蔵省は予算編成で忙しいという理由で、第2臨時行政調査会は一切団体には会わないと、又公明党は党大会の準備で忙しいと、私達に会ってくれませんでした。特にその答申で「国民的論議」の巻きおこりを期待し、「国民の理解と協力」を求めている第2臨調が会わないとはどういうことでしょうか。

対応様々な各党・各省庁
「大学はレジャーランドだ」新自ク

政府――首相官邸へ。首相に署名は渡すが、「私は何も言えないので……」対応したのは、内閣事務官のその又部

11・27中央行動
京大学生代表団

下の方。教養1200京大2000の署名も渡したはず。

文部省―若手の官僚が対応。終始ニコニコ。「要請は伝えておきます。私は何も言えないので……。」

自治省―今度の「行革」の地方自治体へのしわよせを認め、批判的な態度。が、「政府のする事に明確な反対は…。」

自民党―政務調査会藤井氏が対応。終始そわそわ。途中何回か立ちかける。意見を求められても、「私はわからない。」とか要領を得ない返答。

新自ク―政策審議会の人が対応。今の状況では福祉・文教切り捨てやむを得ない。「大学はレジャーランドだ。」オーバードクター問題を語った院生の人に、「そんなことわかって来ているのだから勝手に自分でしろ。」とも。

民社党―政策審議会今野氏が対応。横柄な態度。

社民連―江田五月議員が対応。要求はわかる。そして、自党の方針とも一致。「行革一括法案に賛成したのは、自党の方針とは反するが、それも方便だ。」

国会こぼれ話

議員専用喫茶室にA君は誤って入ってしまった。そこに、公明党議員と自民党議員が連れ立って。しばらくして、公明党議員が立とうとすると、自民党議員が「まあ、カネは僕が払うから。」

社会党―塩谷参院議員。要求に賛成。

共産党―佐藤昭夫議員。要求に賛成。

今日本当に採決するの？

この当日、参院で「行革一括法案」審議の最終盤。議場には、張りつめた空気が。と思いきや、行革特別委員会を傍聴した B君は、「最初からおかしい空気に包まれて、とても政府を追及する雰囲気は…。」行革委では、総括質問が行なわれていました。この質問は、採決を前にした最後の質問です。しかしながら、あの先ほど以前質問した事項の確認を行って割当ての時間をつぶすなど分かりきった行革の根心にふれた討論ではありませんでした。唯一の例外は、「電々公社の新幹線が年に何回のゴルフコンペをしてカネ、何億費のGNPか！」と、上昇するのかという共産党議員の質問で、全体的に低調な議論の中で光りました。

国会に抗議のシュプレヒコール

この日6時から、あいにくの雨の中、日比谷野外音楽堂で集会を開き、今まさに行革一括法案が成立しようとしている国会に向ってデモ。そして国会に向かってシュプレヒコールを上げました。

全ての京大生の皆さん。私たちは、この中央での経験を力にして、臨調反対・学費値上げ反対の闘いの先頭に立っていきたいと思います。共に頑張りましょう。